



## 2021 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第5戦&6戦

開催場所 茂原ツインサーキット(千葉県)  
開催日 9月18日・19日  
参加台数 OK クラス34台  
天候 土曜日 雨 / 日曜日 晴れ  
路面状況 土曜日 レイン / 日曜日 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督 : 佐藤奨二  
ドライバー : 佐藤凌音  
メカニック : 伊藤進 / 仁科真一  
エンジン担当 : K SPEED WIN  
アドバイザー : 井上寛之



## 2021 全日本カート選手権 第5&6戦 (茂原ツインサーキット)

前大会から約 2 カ月のインターバルを挟み、いよいよ今シーズンの折り返しとなる全日本カート選手権の最高峰 OK クラス。舞台となる茂原ツインサーキットは過去2年佐藤が最も苦しんだサーキット。

事前のタイヤテストでは TOP 付近の好タイムをマークし順調との報告であった。しかし、木曜日のサーキット走りだしから様相は一転。今回エントリー34台の装着する各メーカーのスペシャルタイヤが佐藤を不調にさせていく。チームは金曜日に大胆にセットを変え様子を探ると、ここはまずまずのタイム。何とかこの調子で土日へと突入したいところだ。高低差があるコースで、普段は4輪用のサーキットとあり幅が広く、スペシャルタイヤで路面が重くなると、適正なライン、ブレーキポイント、アクセルオンポイントが分かりづらくなるサーキット。路面状況に応じてドライビングの変更が最も必要なサーキットでセンスが問われる。またコーナー中の姿勢が課題の佐藤凌音。進化が問われる大事な一戦だ。



佐藤 凌音 選手



## 【タイムトライアル】佐藤 A 組 1位(全体3位)



西から迫る台風の影響で土曜日は一日雨の予報。勢力は弱まった台風だが、雨と共にぬるい風が時折サーキットに吹き付ける。朝の練習走行と公式練習では当然レインコンディションで「くわれ」がなくマシンの動きも良い。

少しの雨量の違いや気温で変化するスペシャルタイヤのレインタイヤ。特徴をしっかりと叩き込んで、チームはセットを煮詰めタイムトライアルにのぞんだ。抽選の結果佐藤は A 組。レインコンディションでのタイムトライアルは雨量でタイムが大きく変わるため正直運の要素も強い。

目標はグループの TOP だ。タイムトライアルスタートから間もなく佐藤はコースイン。順調に周回をこなし6周目に A 組のトップタイムをマーク。2位にコンマ1弱の差をつける速さだ。このあと行われた B 組はスタート直後に雨がぱらつきはじめ、「もしや」とも想像したが、すぐにコンディションは回復。B 組の選手2名が佐藤のタイムを上回り、佐藤は AB 総合の3位となった。

## 【第5戦 予選】佐藤？位(土曜日の予選)→赤旗中止

さて、土曜日最後のスケジュールは、第5戦の予選。ここまで路面ウェットで、雨は小康状態。いいレインの予選が見れる・・・と思いきやスタート直前から雨脚が急に強まる。

それでもレースはスタートされる。凄まじい水しぶきのなか佐藤はいい動きでポジションキープだが、コンディションはもはや地獄の

ように・・・。最終コーナー側では西日とウォータースクリーンで視界がほぼゼロと思われる状況に・・・。最終コーナーでもクラッシュ頻発で赤旗中断。そして審議の結果周回は予選成立にたっしておらず、予選不成立。よって明日の日曜日のスケジュールをリスケし、第5戦の予選は日曜日の早朝に行われることに。なぜニュートラリゼーションを発動しなかったのか・・・。



## 【第5戦 予選】佐藤21位

日曜日ヘリスケジュールされた予選。佐藤は3位スタートの高位置。スタート直後から様子がおかしく、木曜日とおなじくドライの動きが最悪に悪い。2コーナーの縁石にも付けず、その手前の1コーナーでは攻めすぎる。したがって3コーナーまでにスピードがまったく伸びず佐藤の悪い面が残念ながら佐藤の悪い面が全面にでてしまう。これでもかというくらい順位を落とし21位でゴール。

## 【第5戦 決勝】佐藤23位

ショッキングな予選のあとの決勝。しかし、状況は変わらず。ここ何カ月もチームとドライバーで取り組んできたことも水泡に帰す。



## 【第6戦 予選】 佐藤9位



第6戦の予選。ここからはまた新品ドライタイヤを装着し、タイムトライアル順の3位からのスタートとなる。チームは望んではいないが、佐藤にとって乗りやすい車づくりを開始。残念ながらこれしか今大会を乗り切る方法はない。レースは1周のディレイを挟みスタート。スタートは今回は大きなミスもなく周りもよく見えている。なんとか順位をキープしオープニングラップを終えるが、やはり TOP グループとのタイム差があり少しづつ後退。先ほどの第6戦よりはまだが、根本的な症状は同じ。路面がサラサラなら彼は間違いなく毎回表彰台争いだ。しかし重い路面では今の乗り方は通用しない。

## 【第6戦 決勝】 佐藤31位(リタイヤ/完走扱い)

予選9位と苦しみながらシングルフィニッシュの佐藤。決勝もなんとか我慢の走りを展開してほしいところだが、スタート直後からやはり同じ現象。土手の上から見れば良く分かるのだが、上位陣はほぼ全選手が路面が重くなるほど1コーナーを丁寧に進入し、2コーナーでしっかり縁石にのり向きを変えてアクセルオン。3コーナーまでしっかりとスピードにのっている。しかし中団グループからは1コーナーを攻めすぎて、行き過ぎ。2コーナーの角度がきつくなり縁石にもものれず距離が長くなる上に無駄なアクセルオンが逆にボトムスピードを殺し全てが逆効果になっている。

ドライバー目線は二次元で平面のように見えるサーキットもしっかり俯瞰した目線をイメージし、路面やコンディションの変化をしっかりとらえ、その状況に応じたドライビング、ライン、体の使い方が必要だ。この茂原はそのセンスが如実に問われるサーキット。スペシャルタイヤではタイヤを温存するためにも、タイムを出すためにも無駄のない乗り方が重要。また一からチームと佐藤には取り組んで欲しいところだ。レースは残念ながらラスト数周を残し、リアバンパーボルトが折れてしまいリタイヤ。リザルト上は31位で完走扱いとなっている。得意とする鈴鹿での予選落ちから取り組んできたはずの様々なアプローチは結果が全ての勝負の世界では今の所 意味が無かったと思われる状況です。今一度、選手自身が自分のためにも、応援して頂く皆さんのためにもしっかりと向き合っていかなければなりません。

今回も応援を頂いております皆様には申し訳ない思いでいっぱいです。次戦はもう後半戦の宮城県はスポーツランド SUGO。佐藤も不得手ではないサーキットです。今一度しっかりと向き合って頑張りたいと思います。何卒皆様のお力添えをよろしく願いいたします。今大会もご声援誠にありがとうございました。



## ドライバー 佐藤 凌音 コメント



今大会は土曜日のレインコンディションでのレースでは速さがありいい状態でレースができていました。しかし日曜日からのドライコンディションでは根本的なスピード不足に悩み、苦しいレースとなりました。マシンの走らせ方、レースウィークの組立て方などドライバーで潰してしまったレースでした。チームにもスポンサー様にも応援して下さった皆さんにも申し訳ない、恥ずかしいレースをしてしまいました。菅生大会、自分の弱さを強さに変えられるようインターバル期間で最大限の努力をします。今大会、応援して下さいました皆様。Sparco様、スポンサー様ありがとうございました。

## INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



茂原大会は例年チームとして良い結果を残すことが出来ず何が原因なのかを考えて準備してきましたが、結果を全く出すことが出来ず色々と課題を突き付けられた大会となってしまいました。その中でもレインコンディションでは選手の頑張りもありとても良い状況だったことが収穫でした。調子が悪い時こそ、色々問題点がチームとしても露呈したので、全てを見直しチーム全員で強化して次戦に備えたいと思います。最後にレース参戦にあたり、スポンサー様をはじめサポートして下さいました方々に感謝致します。次戦は良い報告が出来るよう一層努力致します。

## INTREPID JAPAN レーシングチーム

